View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Okayama University Scientific Achievement Repository

岡山医学会雑誌　第119巻　September 2007，pp. 213-214

会員紹介

日本犯罪学会賞を受賞して

石津日出雄（川崎医療福祉大学　医療福祉学部）

—◆ 日本犯罪学会賞の審査対象となった犯罪学に関連する業績目録（論文20編）中の主要論文５編 ◆—

- Ishizu H：Studies on sex identification of human blood and blood stains. Jpn J Legal Med（1973）**27**，168-181.
- Ishizu H and Yamamoto Y：Differentiation of sex origin of bloodstains by radioimmunoassay of sex hormones. Jpn J Legal Med（1983）**37**，127-132.
- 石津日出雄，林　一正，津田茂生，山本雄二，津々見明，岡村幸憲：頭蓋骨と首なし白骨死体の個人識別．犯罪誌（1983）**49**，139-151.
- 石津日出雄：法医生物試料からの性別判定の研究．日法医誌（1993）**47**，423-434.
- 石津日出雄，山本雄二：法医生物試料からの個人識別に関する研究．法医学の実際と研究（2003）**46**，1-26.

日本犯罪学会は昭和３年（1928）９月に設立され，日本学術会議協力学術研究団体として登録された団体です．会員は700名です．当学会では機関誌「犯罪学雑誌」（犯罪誌 Acta Crim. Japon.）を年６回（隔月）各800部発行していますが，犯罪・非行問題に取り組む諸領域の専門家の研究，情報交換，研究協力を促す目的で，昭和３年に機関誌として創刊されたのです．爾来，戦後の一時期を除き隔月刊行され，現時点で第73巻１号が刊行されています．戦後犯罪学の専門領域の分科が進みましたが，「犯罪学雑誌」には主に医学関係，特に法医学と司法精神医学領域の論文が掲載されるようになりました．しかし，会員には法学者，心理学者，司法関係者等が多く含まれ，「犯罪誌」は広く読まれています．近年この領域の研究者が活躍するようになり，これらの研究者に論文発表の機会を与える場としての意義もまた大きいのです．「犯罪誌」は創刊以来欧文抄録を付けることを義務づけるなどして，我が国の犯罪学研究を海外の研究者に知らせ，国際的研究，交流にも寄与しています．昭和49～50年文部省在外研究員として米留学中，ロスアンゼルス郡検視局にも「犯罪誌」があったのを見て驚いたものです．私は昭和51年４月に日本犯罪学会の一般会員となり，昭和61年から現在まで評議員をしていますが，英文論文32編（内筆頭著16編）と和文論文10編（内筆頭著９編）を「犯罪誌」に発表しています．

日本犯罪学会では昭和58年（1983）６月17日，犯罪学の先達である故古畑種基（法医学）・吉益脩夫（犯罪病理学）両博士を記念して，理事会において日本犯罪学会賞を設立することを決定しています．この賞は犯罪学における業績（論文または著書）が卓越している者に授与される賞です．評議員から推薦され，推薦候補者として残った者の中から毎年１名が受賞者として選考委員会の投票で決定されます．受賞者には賞状と古畑・吉益両博士の並んだ胸像のレリーフと賞金が与えられます．平成18年度日本犯罪学会賞は，平成18年11月25日，第43回日本犯罪学会総会において，日本犯罪学会小田晋理事長より私に授与されました．同理事長は，席上選考の経過と受賞者紹介という形式で授賞理由等を詳しく読み上げられました．その内容は以下の通りです．

受賞者紹介文

石津日出雄氏は，現在岡山大学名誉教授，川崎医療福祉大学医療福祉学部教授である．昭和40年３月岡山大学医学部を卒業，同大学附属病院で１年間の実地修練の後，昭和41年４月医師国家試験に合格．昭和41年４月岡山大学大学院医学研究科博士課程へ進学，社会医学系法医学を専攻，法医学三上芳雄教授の指導の下に主論文「アナフィラキシーショックと線維素溶解現象との関連に関する研究」（英文）により医学博士の学位を取得，昭和45年３月大学院の課程を修了した．同年４月岡山大学法医学講座講師，翌46年４月同助教授となる．この年11月，ヒト男性のＹ染色体の長腕の遠位部がアルキル化剤系蛍光色素キナクリンマスタード等で特異的に染色されること（Zech, L.：Exp. Cell Res. 1969），塩酸キナクリン染色によりＹ染色体のこの部（Ｙクロマチン）は休止細胞核においても強く輝いて見えると言うピア

ソン博士の論文（Nature 1970）を頼りに，“Ｙが光るのならこれを法医学上の人体試料の性別判定に利用できそうだ”と手探りで研究に着手した．

昭和46年当時は犯罪捜査上の証拠物件としてとくに重要な血痕からは性別判定はできなかったが，昭和47年石津氏は血痕中の白血球核からＹクロマチンを蛍光顕微鏡下に検出する方法を確立して論文で発表し実務への応用の道を開いた．また昭49～50年文部省在外研究員として米国留学中，ロスアンゼルス郡検視局長トーマスＴノグチ博士に協力し，ニューヨークの３件，ニュージャージの１件，ホノルルの１件，カリフォルニア州内の３件の殺人事件で氏の方法を用いて血痕の性別判定の鑑定を行っている．

昭55年４月高知医科大学法医学教授となってからは血痕中の男性ホルモンと女性ホルモンをラジオイムノアッセイ法により検出して，検出比により性別を判定する方法を確立した．また平成元年山本雄二氏と共に，Witt & Erickson の発表した PCR 法によるＹおよびＸ染色体特異 DNA 配列に基づく性別判定法を追試し，刑事鑑定資料からの性別判定に応用可能となるように原法を改良し，簡単で高感度のものとした．平成２年４月岡山大学教授に転じた後も PCR による性別判定の研究を続けると共に，DNA 多型による個人識別の研究を発展させた．手法は時代により異なるものの，氏はそれまで裁判上の鑑定では不問に付されていた血痕等からの性別判定の道を開いたといえる．

昭和48年12月「Ｙ染色体による人毛の性別判定」の研究論文により岡山大学から結城賞受賞，昭和49年12月計画研究テーマ「Ｙ染色体を応用した法医学上の新性別判定法の開発」により三越若手医学賞受賞，平成18年２月に平成17年度岡山県文化賞（学術部門）を受賞している．氏は法医実務家としても犯罪捜査や犯人検挙に，さらに地域社会の治安維持に多大の貢献をしてきた．その功労に対し，平成10年２月法務大臣より感謝状，平成18年２月警察庁長官表彰（警察協力章），平成18年３月海上保安庁長官感謝状を受けている．また大学内では各種倫理委員会委員長を歴任し，生命科学や保健医療科学の進歩と人間の尊厳の調和にも尽力するなど，研究者，教育者，実務家として，犯罪学の充実発展に寄与した功績は誠に顕著である．

日本犯罪学会は，医学界でも法医学と精神医学の専攻者以外には余り知られていない地味な学会です．年一回の総会（学術大会）がほとんど東京ないし関東圏で行われてきたので地方ではなじみが薄い点もあるように思います．しかし，学会の各会員は平和な国民生活を脅かす犯罪の絶滅を期し，広く専門科学者や実務家が知恵を出し合い，情報を交換し，安全で安心な日本社会の構築のために努力しています．受賞を機に併せて日本犯罪学会の紹介をさせていただきました．

平成19年３月受理
〒701-0193　倉敷市松島288
電話：086-462-1111（内線54951）
FAX：086-464-1109
E-mail：h-ishizu@mw.kawasaki-m.ac.jp